

アンコール・ワットの保存修復へ専門家養成

石澤上智大学教授 が講演—人文科学研究所

人文科学研究所(林義雄所長)主催の講演会「アンコール・ワットの保存修復と国際貢献」が12月10日、生田キャンパスで開かれ、アンコール遺跡調査の第一人者である、上智大学の石澤良昭学長(=写真)が講演した。

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1980年以来カンボジア王国政府と協力して、発掘・修復・研究ができるカンボジア人専門家を養成している。96年には、アジア人材養成センターをシェムリアップに建設。教育活動・広報活動の拠点とし、遺跡の保存・修復だけでなく、遺跡周辺の村落社会の発展、伝統文化再興のプロジェクトなどにも取り組んでいる。

2001年には、同国の歴史を塗り替える発見といわれる274体の廃仏をバンテアイクデイ寺院の境内から発掘した。

石澤学長は、国際協力を重要なことは地元にも溶け込んで、強固な信頼関係を構築すること、人づくりには時間がかかり「継続は力なり」を実感していると話した。

※同研究所は、1月3日から8日まで、アンコール・ワットへの研修・調査旅行を行い、所員20人が参加した。



会計学研究所主催講演会

会計制度の新たな動向

会計学研究所(柳裕治所長)主催による会計学講演会が、11月24日に生田キャンパスで開催され、学生・大学院生・教員約250人が聴き入った。講師の武田隆二教授は、日本を代表する会計学界の第一人者である。はじめに、大学4年生のとき見事合格された公認会計士試験の受験会場が、専修大学神田校舎であったことを披露。「会計制度の新たな動向」として、最近の国際会計基準の導入問題とも関連した「会計ビックバン」(時価評価・税効果会計・連結決算の採用)から平成17年「会社法の創設」にいたるまでの動向を理論面・実務面から詳細に解説され、終わりに会計学の重要性を訴えて締めくくった。



会場の質問に丁寧に答える武田教授(左は柳裕治所長)

(柳 裕治)

講師プロフィール

武田隆二教授＝神戸大学名誉教授・大阪学院大学教授・TKC全国会会長。経営学博士。日本会計研究学会前会長・日本簿記学会会長・企業会計審議会幹事・公認会計士試験委員・税理士試験委員等歴任。日本会計研究学会学会賞・太田賞、日経経済図書文化賞等受賞。著書は『財務諸表論』『連結財務諸表論』『法人税法精説』など多数。

全国大学IT活用教育方法研究発表会で

文・板坂教授らの「ネット授業研究報告」が奨励賞受賞

文学部日本文学文化専攻で進めている「ネット授業」で板坂則子教授らによる研究報告「日本文学文化についてのインターネット利用の国際間の共同授業」が、平成17年度全国大学IT活用教育方法研究発表会(注※)において奨励賞を受賞した。

板坂教授、高橋龍夫助教授、西野強・任期制助手(以上、文学部)、松永賢次助教授(ネットワーク情報学部)は、外国の大学とインターネットを用いてのリアルタイム共同授業(韓国の檀国大学、大田大学、イタリアのベネチア大学)、教員から直接講義を聞く遠隔地授業(英国ケンブリッジ大学など)を3年前から行っている。

これらの授業により、日本の文学・文化を新たな面から解釈し、学生の国際的視野を広げ、また学生が授業コンテンツを作成し、情報発信をすることでプレゼン能力の向上にも成果を挙げている。

同グループは「今後、ドイツのフランクフルト大学や台北の輔仁大学とのネット授業など、さらに規模を広げていく」と意欲的に話している。

※ITを活用した教育方法の実践的・実証的な成果を発表する研究発表会。本年度は発表100件のうち私立大学情報教育協会賞2件、奨励賞4件が選出された(文部科学大臣賞は該当なし)。



左から西野助手、板坂教授、松永助教授(円内は高橋助教授)

伊藤雄司法学部講師が学位取得

伊藤雄司法学部講師＝写真＝が、10月20日付で、東京大学から博士（法学）の学位を授与された。学位論文名は「会社財産に生じた損害と株主の損害賠償請求権—ドイツにおける反射損害の議論との対比において」。伊藤講師は05年（平17）4月から本学講師。



日本学生支援機構・優秀学生顕彰のスポーツ分野で

スキー部の清澤さんが大賞受賞

独立行政法人日本学生支援機構が05度(平17)からスタートした優秀学生顕彰のスポーツ分野第1回大賞に、ユニバーシアード冬季大会アルペンスキー・スーパー大回転で3位入賞を果たした清澤恵美子さん(スキー部＝経営4)が選ばれ、12月17日、表彰された。

同部門の大賞は、ほかにアテネ五輪女子レスリングメダリストの伊調馨さんと千春さん(ともに中京女子大学)。

同機構の北原保雄理事長は表彰式の席上、「西田善夫選考委員(スポーツアナリスト・元NHKアナウンサー)から、高速系アルペン競技の国際大会でのメダル獲得は、もっと高く評価されるべきであると強い推薦があった」と選考経過を紹介、栄誉を称えた。

清澤さんは「ボランティアや学問など、さまざまな分野で同世代が活躍していることが分かり、もっと頑張らなくてはと刺激を受けました」と、今後の決意を話した。

法学部

司法試験対策委員会特別講演会を開催

早稲田大学大学院法務研究科の山野目章夫教授を迎えて、法学部司法試験対策委員会主催の特別講演会が12月9日に神田キャンパスで開催された。

「意外に楽しい要件事実論／民法の立体的理解のために」と題した講演では、金銭貸借をめぐる訴訟を例に、裁判で立証するには、訴状にどのような要件を満たさねばならないかを解説した。



500人を超える参加者が熱心に聴講(円内は山野目教授)

第6回育友会奨励賞

幸田尚恵さんら3組7人表彰

創造的な企画を助成し、在学中の努力・成果を表彰する、第6回(平成17年度)育友会奨励賞の表彰式が12月10日、神田キャンパスで行われた。15組の応募の中から本部常任役員会での選考の結果、奨励賞に選ばれた以下の3組に、受川純一郎会長から表彰状と賞金が渡された。

▽幸田尚恵さん(文4)他2名＝オペラ「八犬伝」台本製作の記録(第421号既報。7面に関連記事)

▽清澤恵美子さん(経営4)＝ユニバーシアード、オーストリアのインスブルック冬季大会において、日本人初の高速系メダリストになるまで(第416号既報)

▽荒木博志さん(ネット情報4)他2名＝国際大学対抗プログラミングコンテスト「ACM/ICPC」を通じた世界への挑戦(第423号既報)

他の応募者には努力賞などが贈られた。

※来年度の募集については、決定次第『育友』、ホームページ及び掲示でお知らせします。



受川育友会長(前列右から2人目)庄菊博同主任(その右)と受賞者(清澤さんは試合のため、ご両親が代理出席)

セクシュアル・ハラスメント防止委員会が研修会を開催

専修大学セクシュアル・ハラスメント防止委員会(瓶子長幸委員長)の研修会が、11月29日、生田キャンパスで開かれ、防止委員を中心に約20人が出席した。

講師は、女性の安全と健康のための支援教育センター・東京大学ハラスメント相談所アドバイザーの丹羽雅代氏。学生間、教員と学生、上司と部下といった事例に触れながら、相談しやすい体制づくりの重要性、信頼される相談員の役割について解説した。

再入学・復籍制度改正

願い出期限の年数制限を廃止

「学生を基本に据えた大学づくり」を目指す専修大学では、このたび再入学(退学者対象)・復籍(除籍者対象)の願い出期間を廃止することを決定した(現行は2年以内)。06年(平18)4月から適用される。概要は次のとおり。

① 再入学許可年次は1年次から4年次とする ② 在学できる年限は入学許可年次の修業年限の2倍とし、退学以前の在学年数を含めない ③ 退学以前に在学していた学部・学科・専攻に出願できる ④ 事情により、一部退学者の二部への願い出を認める ⑤ 学費は再入学する年度の新入生と同額とする ⑥ 選考方法は書類審査及び面接試験 ⑦ 復籍についても再入学と同様に取り扱う



▽問い合わせ・要項請求

【神田教務課】電話 03(3265)5843 【生田教務課(学籍係)】電話 044(911)1258 【二部事務課】電話 03(3265)8359

▽出願期間

2月6日(月)～同20日(月)締切日消印有効

▽試験日

3月8日(水)

商学研究科修士課程「商学特修コース」

選考結果

06年度から導入される大学院商学研究科修士課程「商学特修コース」の選考が11月下旬に行われ、3年次生2人が合格した大学院での専修科目は商品学と流通政策学部4年目から大学院教育をスタートさせ、大学院修士課程を1年で修了することを目指すこのコースは、「企業で即戦力」となる、専門職業人の育成を目的としている(コースの概要等は第419号既報)。